

## 成人の主張

桐野 芽依

本日は、この西条市で、人生の大きな節目となる成人の日をこうして無事迎えることができ大変嬉しく思います。コロナ禍という中ではありますが、私たちのために、感染面に配慮しながら式典を開催して頂き誠にありがとうございます。新成人を代表いたしましてお礼申し上げます。

今日この成人式を迎えるまでの20年間を振り返ると、多くの出会いや支えがあり、今の私を成長させてくれました。20年間の思い出といえば部活動です。中学・高校とソフトテニス部に所属し、礼儀や物事に対する考え方を学ぶことができました。中学時代は、嫌な事があった時は、仲間と相談して互いにパワーをもらったり、時には喜んだり、絆を深め3年間の部活を続けることができました。高校は市外だった為、一度、西条市を離れました。高校では、厳しい監督のご指導の下、毎日の練習は辛く、何度も辞めたいと思っていましたが、いつも支えてくれた家族、共に成長し競い合った友人たちがいたからこそ6年間部活動が無事に終えることができたと思います。離れたことで、地元の大切さに改めて気づくことができました。数えきれないほどの出会いと支えにより、今の私がいるのだと実感しています。ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

今、私は看護学校で看護師を目指して勉学に励んでいます。実習やテストと大変な事は沢山ありますが、今でも多くの人に支えてもらっています。臨床実習では、患者さんを受け持たせていただく中で、看護師から根拠のある意見を必要とされます。看護の勉強や課題、実習は大変ですが、患者さんの経過が良くなったり、「ありがとう」という言葉があるからこそ、頑張ることができています。コロナウイルスの影響などもあり、今後の不安もありますが、看護学校の仲間や先生など多くの人の支えを借りながら、自分の将来に向かって日々精進していきたいです。

最後になりましたが、本日はこのような発言の機会をいただきまして、誠にありがとうございました。